

令和4年度事業報告書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

特定非営利活動法人公共の交通ラクダ

1 事業の成果

令和4年度も、コロナ禍で振り回された1年であったが、ラクダが28年前の設立当時から取り組んできた県庁通り1車線化は完成し、路面電車駅前乗入れも年明けに着工が決まった。吉備線LR T化と路面電車環状化は中断中だが、再起動をめざしてラクダの活動を強化し、市議会・県議会への呼びかけも拡大した。毎月の京橋朝市の出前公聴会、瓦版は継続し配布先を拡大、市民啓発に努めた。

危惧していた犬島アクセスのバス路線が廃止されたが、2022年の瀬戸芸に向けて、西大寺活性化協議会に働きかけて、犬島の福武財団や市議とチームを組み、岡山市の観光・交通担当、JR西日本とも協議して、バスダイヤ便数を提案し、最終的に期間中毎日バス2便運行を実現できた。令和5年度は路線バス復活をめざしているが、様々な制度上の問題点も明確になり、ラクダの政策提言集の原案に反映された。また西大寺・牛窓・犬島・備前をセットで考えるプロジェクトを立ち上げた。瀬戸芸に向けての「備讃瀬戸アクセスマップ」は前回同様3万枚を春夏秋冬に分けて配布できた。

瓦版197号で取り上げた熊本市の電車バス無料化の取組みは、岡山市で継続するだけでなく、我々の毎週の全国Zoom会議で大きく取り上げ、全国に波及し、高知・札幌・旭川・近江鉄道などにも広がった。公共交通を利用しなかった自動車ユーザー、子連れ、子供同士のお出かけに対する宣伝効果が全国的に認識され、ようやく公共交通キャンペーンとして定着しつつある。

全国路面電車ネットワークにも開放したZoom定例会議には、大学教授、国会議員から市民団体、学生まで毎回25人以上が参加、昨年は49回、コロナ後通算137回開催。全国路面電車ネットワークのプラットフォームとして機能し、特にJR北海道の余市・小樽間の廃止問題など全国各地の事例報告と研究が進み、JRが2000人以下を廃止基準としているが、多くの地方鉄道では1000人程度でも自治体の支援を受けて運行し、便数も2-3倍有ることが明らかになってきた。こうした議論経過はホームページでも詳細に報告し、毎日平均130人、最大500人がアクセスした。

これまで日本の公共交通は民営主体で制度設計されていたが、特に岡山程度の政令市や中核市など「ミドル都市圏」では1時間4本レベルを維持すれば人口増加も出来ることがわかり、その為の財源確保、法整備、EU基準のよるSUMPという公共交通持続プログラムを導入すべきだと結論づけた。これらを表現した「クリーンモバイル岡山倉敷連星都市圏3」という政策集の執筆に着手、全国のメンバーにも執筆依頼し、広告集めも始め、令和5年2月の発行予定となった。

令和4年度には第19回全国バスマップサミット松江、第15回全国路面電車サミット長崎を幹事団体として開催する事が出来、毎週のZoom会議メンバーとも生の交流ができた。また6月の路面電車まつりは東山会場に限定して開催、10月のJR・岡電の鉄道記念日イベントにも参加した。

収益事業であるピアガー電は再開したものの、コロナの状況を見ながら3回のみ実施。毎年の収益事業の停滞で、会の運営にも重要な影響が出ている。

会員数は岡山での主力メンバーの病気高齢化で、戦力低下は深刻で、76名と3名減少。しかし会員数には反映しないが、Zoom会議には新たに全国から20代が3名参加するなど、ネットワーク活動は活発化した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 定款の事業名 | 事業内容 | 実施日時 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出金額 (千円) |
|--|----------------------|------|----------------------|--------|-------------------------------|--------------|
| 公共の交通を充実させるための、公共交通をツールとしたまちづくり、公共交通の拡充・活性化、自転車の有効利用の推進、公共交通に関する調査、企画、調整、仲介等の諸事業 | JR 吉備線 LRT 化推進事業 | 通年 | JR 吉備線沿線を主とする岡山、総社市内 | 150 名 | JR 吉備線沿線住民を主とする岡山・総社市民など不特定多数 | 31 |
| | 路面電車環状化・岡山駅前広場乗入推進事業 | 通年 | 岡山市内 | 100 名 | 岡山市民、路面電車利用者など不特定多数 | 0 |
| | 吉備線路面電車直通推進事業 | 通年 | 岡山市、JR 吉備線沿線 | 50 名 | JR 吉備線沿線住民、岡山市民など不特定多数 | 0 |
| | バスマップ作成配布事業 | 通年 | 岡山市・倉敷市 | 200 名 | 岡山・倉敷市民、バス利用者など不特定多数 | 0 |
| | バス停アダプト事業（バス停留所環境整備） | 通年 | 岡山県全域 | 2 名 | 岡山県民全般など不特定多数 | 0 |
| | バス活性化プラン作成事業 | 通年 | RACDA 事務局を中心に岡山県全域 | 400 名 | 岡山県民全般など不特定多数 | 37 |
| | 市民向け公共交通活性化・交通井戸端会議 | 通年 | 岡山市を中心に岡山県全域 | 500 名 | 岡山県民全般など不特定多数 | 840 |

| | | | | | | |
|----------------|--|------|------------------|-------|---------------|-----|
| | 「路面電車の日」実施事業 | 6/10 | 岡山市内路面電車沿線 | 5名 | 岡山市民全般など不特定多数 | 91 |
| | ワイン電車 (車内でワイン等を提供する路面電車の運行)・ビアガー電 (車内で生ビール等を提供する路面電車の運行)等実施事業 | 通年 | 岡山市内路面電車沿線 | 0名 | 岡山市民全般など不特定多数 | 160 |
| | 自転車有効利用推進事業 (交通手段としての自転車の活性化、有効利用を推進する事業) | 通年 | 岡山県全域 | 20名 | 岡山県民一般など不特定多数 | 0 |
| | 各地路面電車 地方鉄道 存続・電車等保存運動支援事業 | 週1 | 全国の該当地域 | 1088名 | 該当地域住民など不特定多数 | 91 |
| 地球温暖化防止に関する諸事業 | 岡山地区移動発生源温暖化ガス減ロードマップ立案作成事業 | 通年 | RACDA 事務局を主に岡山市内 | 10名 | 岡山県民全般など不特定多数 | 0 |